

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



医療法人社団 国立あおやぎ会

Medical corporation Foundation Kunitachi Aoyagikai

施設名：国立あおやぎ苑立川

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順 1 ～6）
- 導入に関わった職員が機器を活用して良かったと感じたこと
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	医療法人社団 国立あおやぎ会
施設名	介護老人保健施設 国立あおやぎ苑立川
所在地	東京都立川市
定員	151名
平均介護度	3.1
職員数	147名
特徴	多摩川の河川敷に面し、緑が多い環境で介護老人施設の使命である在宅復帰・総合的なケアサービスの提供・地域に開かれた施設としてケアハウスを併設し、質の高いサービスを提供し、皆様に安心してご利用いただける施設を目指しています。



導入した次世代介護機器

メーカー名	パラマウントベッド株式会社
機器名	眠りSCAN(NN-1520)
台数	48台



導入の手順

導入の6つの手順

取組期間
令和5年12月～現在

取組実施者：プロジェクトメンバー（職種:介護・看護・事務）約8名

手順 1	改善活動の準備をしよう	● 情報収集 ● 取組に対する組織全体での合意形成 ● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	● 導入計画づくり ● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	● 導入準備 ● 次世代介護機器の活用 ● 小さな改善活動
手順 5	改善活動を 振り返ろう	● 効果検証 ● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	● 実行計画の練り直し

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1：改善活動の準備をしよう

取組期間：1月1日～

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- ・東京福祉保健財団HP「アドバンスト施設による次世代介護機器導入事例」
- ・厚生労働省HP「介護ロボットの開発・普及の促進」
- ・夜間におけるナースコール、センサー対応などの巡視、訪室業務が多く、職員の負担となっていた。

● 取組に対する組織全体での合意形成

- ・毎週水曜日 17:00～17:30 にてプロジェクトメンバーでのミーティングを行った。
- ・上記ミーティング内にて導入に至った経緯、まだ導入する事によって想定される利点、欠点。各層における導入前、導入後の課題の共有及び課題解決への策定を行った。

● 実施体制の整備

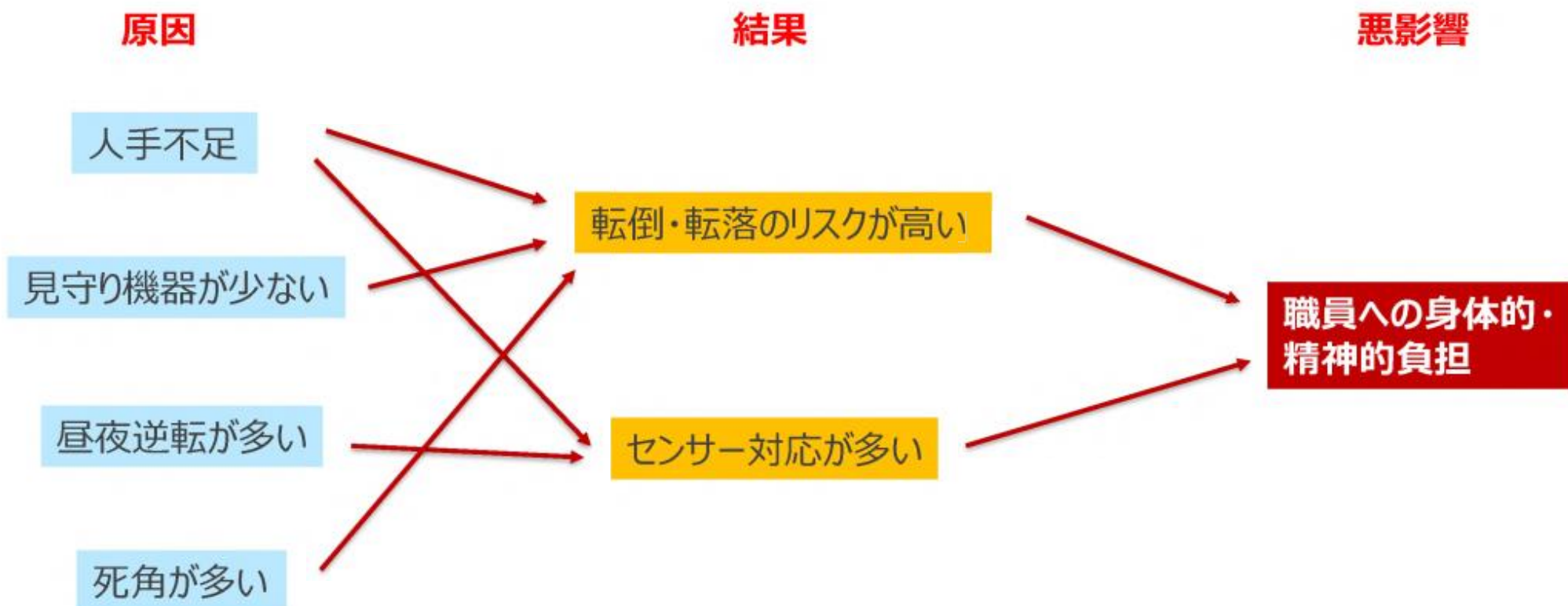
	役職	チーム内での役割
1	事務長	統括責任者
2	介護部長	事務担当
3	介護課長	マニュアル/研修担当
4	看護課長	リスク検討担当
5	介護主任	プロジェクトリーダー/調査・技術担当
6		

手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

手順 2

- 課題の見える化

● 課題の見える化



手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：1月1日～3月1日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

- ・ 夜間業務において、寝返りなどによる危険を伴わないセンサー対応・訪室や1時間毎の全部屋の巡視などに対し、眠りSCANを導入する事によりパソコン、タブレットから利用者の睡眠状況が分かるようになり、無駄な訪室・巡視という問題が軽減され、職員の身体的・精神的負担を軽減できる。

□ 導入する次世代介護機器

- ・ パラマウントベッド株式会社 『眠りSCAN』(NN-1520)

□ 成果指標

夜間業務における

- ・ 訪室回数
 - ・ 業務時、業務後の疲労度などのアンケート
- を計測し、導入前、導入後を比較し成果指標とする。

手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：1月1日～3月1日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- ・国立あおやぎ苑立川 4Fフロア 35床全床

□ 選定理由

- ・研修担当であった職員が在籍するフロアであるため。
- ・他フロアで一度導入を試みたが、該当フロアは転床などベッドを移動させることが多かったため、眠りSCANの設定や再配置など、結果的に業務量が増えてしまったため。

□ 選定する際に留意した点

- ・出来る限り多くのフロアスタッフの意見を取り入れていく。
- ・機器のエラーなどを考慮し既に使用しているセンサーを併用していく。

手順 4：改善活動に取り組もう

取組期間：1月1日～

手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 導入準備

機器導入までの経緯、導入する予定の機器の詳細、使用方法をスタッフへ周知する。

- ・メーカー担当者とやり取りを行い、導入する機器について理解を深める。
- ・機器導入までの経緯、導入する予定の機器についてフロアスタッフへ説明。申し送りや業務ノートへの記載を行い、周知する。
- ・導入後の失敗を減らせるよう、分かりやすいマニュアルの作成。
- ・導入をスムーズに行えるよう、ベッドの位置調整、配線の整理。

手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間：3月～

手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 次世代介護機器の活用

□ 「効果的に活用するコツ」

- ・ 眠りSCAN導入直後は全台を活用するのではなく、一部フロア、利用者に絞り活用し、職員に慣れてもらうことを優先する。
また使用する際は機器のエラーなどを考慮し既に使用しているセンサーを併用していく。
- ・ 導入後「効果的に活用できなかった」等の事例があった場合、週に1回のミーティング、申し送りでの共有を行い、原因の究明、解決策の策定を行っていく。

□ 「効果的に活用できなかった原因」

- ・ 導入後直後、特定の利用者にエラーや誤作動などが頻発してしまった。

手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間：3月～

手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな改善活動

● 小さな改善活動

□ 改善活動の内容

- ・夜間、浅眠でありセンサー反応、ナースコールが頻回であった利用者に対し、眠りSCANの「睡眠日誌」を活用。睡眠導入剤を処方する指標の一つとできたこと。

□ 改善活動の共有方法

- ・ 申し送り、週 1 回のミーティングでの共有。
- ・ 「小さな改善事例」をまとめるノートを作成し、職員全員が自由に閲覧できるようにする。

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月～

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 効果検証

Before



After

□ 訪室回数

- ・170回(1 時間に 1 回の巡視含む)

□ 訪室回数

- ・200回(1 時間に 1 回の巡視含む)
(+約18%)

□ 疲労度のアンケート

- ・10段階評価中平均9

□ 疲労度のアンケート

- ・10段階評価中平均8

手順 5：改善活動を振り返ろう

取組期間：4月～

手順 5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 整理

上手くいった点

- ・利用者ごとの睡眠状態をモニタリングし把握することができた。
- ・床センサーよりも早く反応するため、素早い訪室が可能。

上手くいかなかった点

- ・エラーや誤作動が多く、結果的に訪室が増えてしまった。
- ・細かい設定などへの理解がなく上手く活用することが難しい。

□ 分析

- ・エラーや誤作動は体重の軽い利用者や円背の利用者に多いこと。またエアーマットとの併用によって起こる場合もあることが分かった。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間：4月～

手順
6

- 実行計画の練り直し

● 取組内容の見直し

□ Before

- エラーや誤作動が多く、訪室が増えた。
- 機器への理解が不十分



□ After

- 週1回のミーティングを実施し、職務間で情報を共有した。
- メーカーに問い合わせを行い、対策について相談を行った。
- 眠りSCANの位置や利用者の臥床位置を考慮した。

等

これを繰り返し…

PDCAサイクルを回していく。



手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間：4月～

手順
6

- 実行計画の練り直し

● 取組内容の見直し

改善を行った結果

Before



After

□ 訪室回数

- ・170回(1 時間に 1 回の巡視含む)

□ 訪室回数

- ・140回(1 時間に 1 回の巡視含む)
(－約12%)

□ 疲労度のアンケート

- ・10段階評価中平均9

□ 疲労度のアンケート

- ・10段階評価中平均6

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

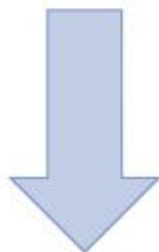
- ・ 機器導入前に、現在自施設においてなぜ機器が必要とされているのか、導入する機器は何が適切なのか、しっかりと把握する。
- ・ エラーや誤作動など、機器についてはメーカー担当者に相談。
- ・ 機器の取り扱いに関して、マニュアルだけでは不十分なことも多いため、プロジェクトメンバーは他の職員へ対してフォローを行う。

導入に関わった職員が機器を活用して良かったと感じたこと

- 『上手く使用することができれば便利。負担が減る』
- 『転倒や転落などの事故が減った』
- 『今回導入する機器以外のものにも興味がわいた』

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

プロジェクトチームなどを立ち上げる必要、利点はあるですが
最終的には



職員一丸となって取り組む

ご清聴ありがとうございました